

ワケ カタチには理由がある(?)

~Bv141 偵察機

本機は、日本から祖国に戻ったリヒャルト・フョークト博士が設計し、1938年に原型が初飛行したドイツ空軍の偵察機です。実際に製作された非対称航空機という点では、右に出るものはない機体でしょう。「ネズ爺&ハテナンの特許探偵団 vol.17」でも取り上げましたが、プロペラのトルクを長い右翼とゴンドラで相殺させるという意図がありました。そもそもプロペラが一方向に回転する以上、プロペラ単発機ではプロペラトルクによる駆動力の偏芯は避けられず、一見左右対称に見える通常の飛行機でも、トリムタブを使う、垂直尾翼を傾げる等、何らかの対応を取っていましたが、この機が採用した解決策は大胆です。偵察機ということで、視界を確保するという目的に合致するという僥倖もあって、一旦は採用となりましたが、結局、単発機というレギュレーション違反の双発偵察機、Fw187に敗れて、大量生産はされませんでした。



【模型について】

ピアンカモデル製 1/72 のレジンキットです。このキットは国産で、模型サークル仙台翼産会の U さんが製作されている、いわゆるガレージキットです。表面のパネルなどにメリハリが付けてあって、とても良い出来でした。通常のインジェクションキットとしては、エアフィックスの往年の佳作キットもありますので、気軽に作るならこちらでしょうか(実は、ゴンドラ尾部は楽するために、一部このキットを流用していますw)。(中川裕幸 2021年1月)

